

『日記』2000-2006年頃
紙に鉛筆、綿紐
201×179mm



『日記』2006年
紙に鉛筆
252×179mm



夏の暑い日が続き、私の肌も日に日に黒くなり、足下にはサンダルの鼻緒の日焼け跡がくっきりとしてきた。私の今年の夏は瀬戸内海での海底探査船プロジェクトや新潟での明後日朝顔プロジェクトなど、屋外での活動が多く身体で夏を満喫している。汗をかいて水浴びをする。夏だからね……。一方では、暑くて外を歩きたくない、空調の利いた場所で過ごしたいという気持ちもない訳ではない。クーラーの気持ちよさは身体が覚えているからね。

アール・ブリュットには、夏の日に汗をかいたあとの水浴びをする気持ちよさがそこにはあるような気がする。決してクーラーで身体を冷ますのではなく、水を浴びたくなって、「ひよー——」と言いつつ、声を出しながら、水を浴びるあの心地よさと似ている気がする。

人間の体温は36度8分が平熱だから、身体が火照ると、体温を戻したくなる欲求になる。冷たいものを口に含んだりして、熱を冷ましたくなる。ズーと一定温度でいられるのは悪くはないというか、それでいいのだけれど、そのほうが安定していて間違っていないわけなんだけれど、それでは、水を浴びる気持ちよさを体験できない、それはすこしもったいないような気がするの、間違っているのでしょうか？

アール・ブリュットの 魅力を語るコラム①

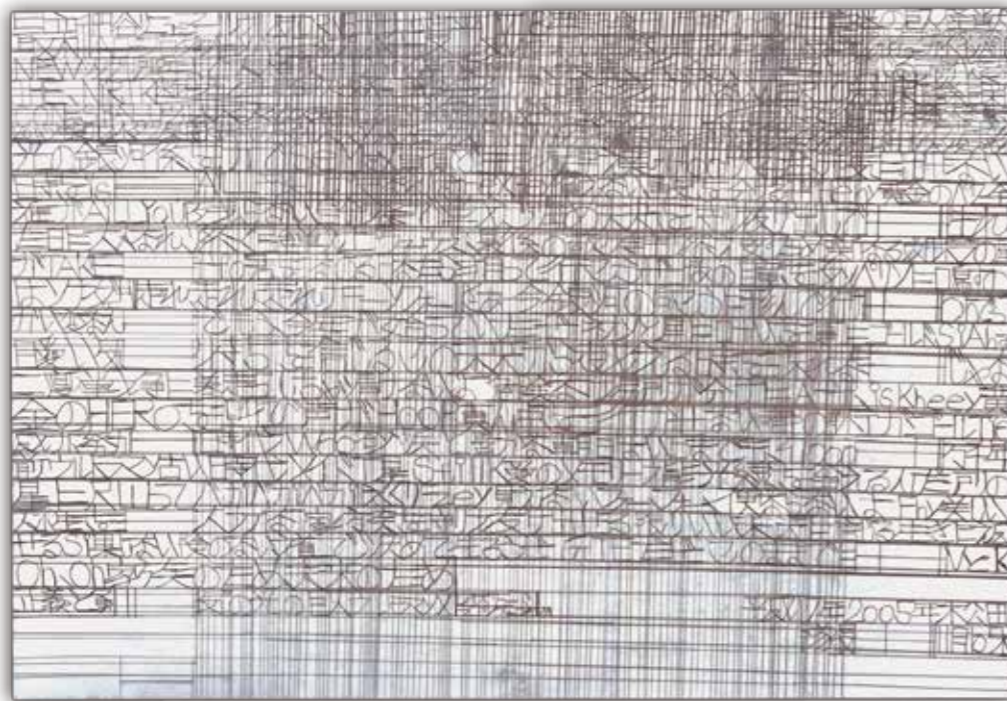
その快感を味わうために、水を浴びるために汗をかく事は間違っているけれど、【同じ間違いの例：ストーブにあたりたいから、身体を冷やす】、汗をかいたら水を浴びたくなるという「カイトラアビル」の法則は、リングが木から落ちると同じくらい、自然の摂理であって、眠くなると顔が長時間閉じるくらい、と同じくらいとても人間的であって、夜に丸い月を見上げて、少し欠けているかな？と、明日が満月かな？いや、もう満月かなと暫し夜空を見つめ続けてしまうのと同じくらい自然なことだと思います。

行動には理由がある。「カイトラアビル」のように行動には理由がある。絵を描くにも理由がある。絵を描きたいから描く。絵を描かなくては行けないから描く。褒めてもらいたいから描く。生活費を稼ぐために描く。上手になりたいから描く、暇だから描く……。

人は何故絵を描くのか？その答えはきっと「カイトラアビル」の法則の中にあるような気がする。そしてアール・ブリュットの絵の中にはその「カイトラアビル」の法則があるような気がする。(2013年10月)

日比野 克彦

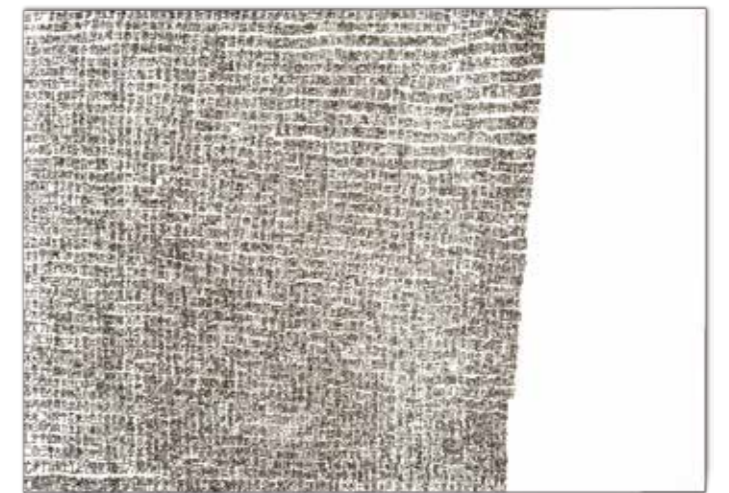
アーティスト | 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授



『地球を救う』2005年 紙に鉛筆 268×390mm



『無題』1997-2007年
図鑑にボールペン、水性ペン
[上]268×391mm(見開き状態)
[下]262×365mm(見開き状態)



『無題』2007年 紙に水性ペン 257×363mm